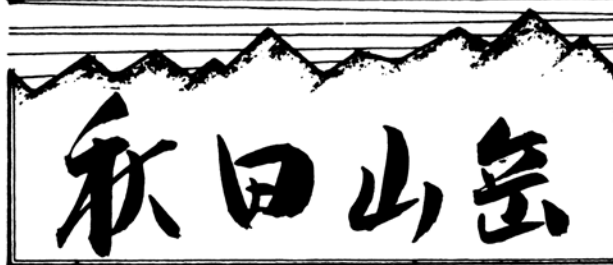


2016



平成 28 年 9 月 発行

No. 102

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

第 32 回 東北・北海道地区集会

祝 八月十一日「山の日」制定記念 第三十二回東北・北海道地区集会開催

支部長 今野 昌雄

東北・北海道地区集会は七月三十日(土)～三十一日(日)、秋田県北秋田市森吉山域で開催された。会場の森吉山荘には、東北・北海道の外に、越後、茨城、千葉、東京多摩、静岡、関西、首都圏を含めて八十七名の方々が参集した。

受付の後、支部長会議で各支部の近況と次年度の開催支部について話し合った。

全員集会は、三浦真六委員の司会進行で行われ、私は、この集会の第一回目が、秋田駒ヶ岳・鶴ノ湯温泉で行われ、秋田は今回六回目になるが、今年は山の日施行の記念すべき最初の年であり、このように盛大に開催できることを嬉しく思うこと。

この集会では、八十七名が支部の枠を超えて、形式にこだわることなく、素朴な中にも心からの交流を深め、森吉山域の緑滴る雄大な自然と民俗文化や歴史に接し、楽しんでいただきたいこと。

また、当支部では去年から準備に当たって来ており、不行き届きもあるだろうが、事故のない、思い出に残る集会を参加者全員で作りたいのでよろしく願う旨の挨拶をした。

津谷永光北秋田市長の歓迎の言葉があり、その後、「森の恵み・山の生活(くらし)」と題して、秋田県文化財保護協会理事で市文化財保護団体連絡協

議会長の戸嶋喬氏の記念講演。森吉山の魅力、菅江真澄も森吉登山をしたこと、阿仁マタギについても興味深く話された。

その後、玄関前の広場に移動し、県指定民俗文化財の阿仁前田獅子踊りを見せていただいた。太鼓や横筒に合わせて激しいテンポでの踊りの後半、夕立に見舞われた。見物者はポーチに駆け込んだが、獅子踊りは続き、保存会のメンバーには雨の中難儀をおかけした。



集会で挨拶をする今野支部長

懇親会は午後六時から行われ、司会進行は堀井弘副会長、佐々木長秀委員が受け持った。



懇親会は大いに盛り上がった

支部長挨拶に続き、佐々木民秀顧問の乾杯、懇談に入ったところで、森吉山荘支配人・間杉政明(森吉山岳会員)の歓迎のことばと森吉賛歌が朗々と歌われた(森川鉄雄・県岳連副会長兼森吉山岳会長も応援)。この作詞者はクマゲラの発見者でもあった故・庄司国千代(元森吉山岳会々長)で、娘さんとお孫さんは現テレマーズク山荘経営(故・泉祐一支部会員が初めて営業を確認)

各県の自慢の銘酒が並ぶ中、話題の熊鍋は会場で鍋からお椀に盛られ、比内地鶏や地元山菜料理と頂いた。各テーブルの交流、各支部の紹介もにぎやかに行われ、岩手の阿部裕二副支部長の



阿仁ゴンドラ山麓駅前で集合写真

次年度開催地代表挨拶と中締め、その後、鈴木裕子副会長兼事務局長の挨拶で閉会となった。

二次会は別室で行われ、飲みながらの情報交換や交流、歌を楽しむ会員達もいた。長谷川雄助氏（北海道前支部長）から美味しいスイカの差し入れもあった。

三十一日の交流山行は、森吉山登山と桃洞ノ滝・赤水沢溪谷散策の二つのグループに分かれて行動した。昨夜の懇親会のお天気祭りも利いて、青空のもと、さわやかな風を受けて快適な登山日和となった。

近年脚光を浴びてきている。この山域もここ五、六十年の間に大きく変わってきたが、昭和五十九年には全国高校総体登山大会、平成十年には皇太子殿下もお見えになられたポイイスカウトの全日本ジャンボリー大会、平成十九年は秋田わか杉国体山岳競技が行われた。今回も県生活環境部自然保護課や津谷永光北秋田市長はじめ、地元行政や森吉、阿仁、鷹巣山岳会等の協力で感謝申し上げます。

ゴンドラ乗り場の階段で集合写真を撮り、八時四十五分ゴンドラに乗る。降りてから、各班で軽く準備運動して九時三十分頃出発。先頭は私が、最後尾は佐藤博委員。石森と阿仁避難小屋、稚児平で休憩。山頂には予定通り十一時頃到着。鮮やかなオレンジ色の小旗をつけた一班・堀井弘、二班・鎌田倫夫、三班・安藤金栄、四班・佐々木長秀、五班・藤田正義の各班長を中心に行動した。ハクサンシャジン、ハクサンボウフウ、ハクサンフウロウ、オトギリソウ等の花が咲いていたが、ニッコウキスゲはほとんどが終わっていた。モロピの樹の近くでは独特のさわやかな香りが漂っていた。

山頂での昼食時、佐々木民秀顧問から眺望される山座の説明があった。時々薄いガスもかかって、鳥海山や岩木山は残念ながら見えず、秋田駒ヶ岳や八幡平は見えた。

岩陰の目立たないところで、佐々木孝憲（前鷹巣山岳会々会長）、三浦武（鷹巣山岳会々会長）にお湯を沸かしてもらいながら、私が抹茶を点て、佐々木民秀顧問が高齢会員や女性会員達

に大声でコールしながらそのお茶を振る舞って喜ばれた。

桃洞ノ滝散策 三浦真六CL、柴田勸班長を中心に、サポートの福田光子（前副支部長）、長岡幸則会員、大船武彦（日本山岳会前自然保護委員長、東京多摩）、佐藤澄夫（森吉山岳会事務局長、県立自然公園管理人）も同行。奥森吉のブナ原生林と桃洞ノ滝、清冽な流れを楽しみながら行動した。

桃洞ノ滝を背景に

本部・森吉山荘には鈴木裕子事務局長、高橋忠雄監事、後藤浩二会員が待機した。

ブナ、モロピの緑輝く原生林、高山の花々、心地よい風や清冽な流れはさまざまなお天気も今回の参加者に送って、思い出に残る集会になったと思われる。

準備から実施まで、各担当委員はじめ、多くの方々のご協力のおかげで、事故もなく無事この集会を終えることができたことに感謝致し報告とします。



桃洞ノ滝を背景に

参加者 八十七名

北海道支部四名 青森支部十名
岩手支部五名 宮城支部十一名
山形支部三名 福島支部十四名
茨城支部四名 越後支部二名
千葉支部一名 静岡支部二名
首都圏一名 関西支部一名
岐阜支部友二名 森吉山岳会二名
鷹巣山岳会二名 阿仁山岳会一名
秋田支部 二十二名

森吉山登山 六十七名

CL 今野昌雄

一斑 班長 堀井弘 川口廣志
二班 班長 鎌田倫夫
三班 班長 安藤金栄
四班 班長 佐々木長秀
五班 班長 藤田正義

サポート 佐々木民秀 佐藤博
石川祐子 佐々木悦子
大橋忠雄 熊谷光子
浅野茂春

桃洞ノ滝散策 十五名

CL 三浦真六
六班 班長 柴田勸
サポート 福田光子 長岡幸則
大船武彦

本部 鈴木裕子 高橋忠雄 後藤浩二
お礼

次の方々からお祝いをいただきました。ありがとうございます。

一万円 佐藤英實様（秋田支部）
清酒 北海道支部 青森支部
岩手支部 宮城支部
山形支部 福島支部
越後支部 縄田さかゑ様
津谷永光様 鷹巣山岳会
森吉山岳会
スイカ 長谷川雄助様

地区集会報告

三浦真六

平成二十六年に福島支部で開催された集会時の支部長会議で、二十八年の集会は、秋田支部担当で行うことに決定。二十七年に準備のための集委員を選任して準備に入った。

準備
県内開催候補地の中から、森吉地区に決定。

森吉山は、県のほぼ中央に位置し、独立峰であり、広大な山麓は手付かずのまま保たれていること。

特に、一枚岩が侵食された溪谷のウォーキングは、夏が最適なこと。マタギなどの民俗的風習や食文化が今も継承されており、ぜひ参加者に紹介したいこと等が決め手となった。

準備は一年前から、宿泊施設・登山道・ウォーキングコースの下見等、手分けして行い、開催に備えた。

集会

開催当日午前九時、秋田支部委員が森吉山荘に集合し、それぞれの役割分担に従い準備。

午後二時三十分参加予定者八十二名全員が会場に集結。集会に先立ち七支部の支部長会議が開催される。

午後三時、集会は今野支部長の挨拶で始まる。津谷北秋田市長から森吉地区を会場に選んだことへの感謝と森吉の魅力について、詳しく、かつ親しく語りかける歓迎の言葉を述べられた。引き続き記念講演は「山の恵み・

山の生活(くらし)。阿仁生まれ、阿仁に育った戸嶋喬氏(秋田県文化財保護協会阿仁支部長)が、素朴ながら熱く語る内容に興味津々。特にマタギの風習に関心が集まった。



雨の中で舞う獅子踊り保存会の方々

次に、会場を玄関前広場に移して、「阿仁前田獅子踊り」が演じられる。同保存会の代表からこの踊りのいわれについて説明が行われた後、数ある演目の中から選ばれたのが、三体の獅子が繰り広げる愛憎を演ずる獅子踊り。

脚絆に草履、前に抱えた小太鼓を打ちながら、三体の獅子が激しく舞う終盤近く、気が付けば、地面に煙があがるほどの猛烈な雨が降り出した。

太鼓等が濡れることを心配した参加者から口々に中止の声が叫ばれたが、最後まで演じられた。

桃洞ノ滝散策

二日目、午前七時四十分。今日の行動計画を説明後、参加者十四名森吉山

荘出発。

鳥獣保護センター(ノロ川への降り口)へ。立川を渡り、ノロ川沿いに歩き出すと、樹齢二百年前後のブナが林立する姿に圧倒される。足元はブナの落ち葉が厚く堆積し、分厚い絨毯の上を歩くような柔らかな弾力が伝わってくる。ノロ川を覗き込むと赤みを帯びた水の中に岩魚を見つめる。人の近づきを知り、倒木の陰に身を隠す速さを感じ嘆。

やがて桃洞沢に入ると一枚岩の川床をジャブジャブと皆思い思いに歩く。そして、突然目の前を塞ぐ桃洞ノ滝が現れた。丸みを帯びた岩肌を気泡に満ちた水が逆光を浴び、光る水玉となり優しく流れ落ちる。一同、声もなく写真に夢中になる。

予定より、緩やかな行動の結果、少し早めの帰りとなったが、皆、饒舌満足の内に、工程が終了した。

(集会委員長)



森吉山荘で受付

地区集会報告

佐々木長秀

集会を支えてくれた

行政と地元の方

百人規模の集会を開催するために、行政や関係団体の協力が不可欠であることを痛感した。

津谷市長を始めとする北秋田市の皆さんからは、各種資料の提供と講師や郷土芸能の紹介など、強力な協力をいただいた。

特に、市長さんからは、心のこもった歓迎のご挨拶をいただき、交流会には、美味しい地酒までいただいた。

また、鷹巣山岳会・森吉山岳会・阿仁山岳会・森吉山荘からは、さまざまなアドバースとご協力をいただいた。

さらに、秋田県(自然保護課・観光課・環境省(保護官事務所・野生鳥獣センター)からも、資料提供やご指導をいただいたことを付記しておきたい。

この様に、秋田支部会員だけでなく、多くの皆さんの力で、集会を成功させることが出来たことを忘れてはならない。

今年から「山の日」が制定され、公益社団法人である山岳団体として、益々、行政や各団体との連携が必要となっている。

今回の集会成功の経験と教訓を、さらなる日本山岳会秋田支部の発展の財産にして行こうと思う。

(集会委員)

集会を顧みて

佐々木 民秀

秋田支部として六度目を迎えた第三十二回東北・北海道地区集会は、参加支部会員のご協力のもとに無事に終了した。

今日では恒例となっているこの地区集会は、三十五年前の昭和五十七年十一月に、第一回目として秋田支部が担当しているが、これが日本山岳会としては、初の地区集会となったようである。

何故に開催されたのか、そのルーツを辿ってみると、第一回開催の半年前の五月に、宮城県山岳連盟の創立三十周年記念式典があり、その時出席されていた日本山岳会の支部長職でもあった山形の後藤幹次をはじめ、宮城の伊達篤郎、福島の中島正夫、そして秋田の柴田均二の諸氏などの間で、日本山岳会の東北支部として年一度集う会があつても良いのではないかと、このことで集会の開催を決定。その年の十一月に秋田支部が担当し、位置的に見て集合しやすい乳頭温泉郷の「鶴の湯温泉」を懇親会場に、秋田駒ヶ岳で懇親登山を実施したのである。参加者は七十三名。当時、支部の活性化を提案されていた本会会長・佐々保雄、総務担当理事・神崎忠男、坂本正智の諸氏などが参加されている。

尚、この度は、福島支部設立者である伊藤弥十郎氏のご子息・伊藤義男氏と、第一回集会に参加された方々が三

名おり、敬意を表し氏名を紹介していただきたい。宮城支部の千田早苗氏と高橋功氏、秋田支部の福田光子氏である。また、これまでの集会を記録した私の資料「開催一覽表」を皆様に配布致しましたが、今後も回を重ね、東北・北海道地区集会の歴史が積み重ねられることを願いたい。

最後に、とかく公益公益と言われていたが、かつて神崎忠男氏から頂戴した寄稿を思い出し、その一節を記しておきたい。

「JACの発展ということを考えるならば、それは組織ではなく、人と人、心と心の触れ合う和（輪）の広がり。組織があつて会員がいるのではなく、会員がいるので組織がある。……：理屈抜きに会員同士の触れ合いが大切……云々」
(会報「秋田山岳」第六号・第八号参照)



森吉山を望みながらお花畑の木道を歩く

佐々木民秀顧問

目標達成おめでとう

佐々木民秀顧問は、八月十二日南アルプス仙丈ヶ岳から間ノ岳、農鳥岳、広河内岳を縦走し、南アルプス南部・北部主脈全山縦走を終了。満八十才の記念山行。

八ヶ岳北部・南部主脈全山の縦走は平成二十五年に終了。

どちらも初入山が七十三才以降の単独行。尚、中央アルプス主脈と丹沢山塊主脈の全山縦走も五十年前に単独行で終了している。本格的に山登りを始めた昭和三十三年から今年までの六十年間、入山を一年も休まず皆勤。

会務報告

◎第二回役員会

九月八日(木) 午前九時から泉コミセンで開催。

第三十二回東北・北海道地区集会計報告。

集会各自報告。

二十九年度地区集会は岩手支部担当五月末を予定。

宮城支部主管・登山教室指導者講習会へ三名参加予定。

秋山山行 十月二十三日 源五郎岳(森吉地区)を予定。

太平洋山歩道整備 十一月上旬を予定
箇所については、中央地区山岳協議会と協議する。

事務報告

八月十日

第三十二回東北・北海道地区集会参加者へ記念写真等の郵送。

同秋田支部参加会員へ記念写真等郵送。

同来賓、講師、民俗芸能保存会、地元山岳会へお礼状郵送。

訃報

阿部鉄男氏

病氣療養中のところ、平成二十八年九月四日逝去(享年七十五才)

謹んでお悔やみ申し上げます
支部からは、弔電をお供え致しました。

訂正



・会報九十九号 二頁三段目
釜↓鎌に訂正
鈴木茂男↓鈴木茂夫に訂正
高橋克美↓高橋勝美に訂正
・会報一〇〇号一頁
佐藤兼司↓佐藤兼治に訂正

・新年会の開催を検討する。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘

石川祐子 鎌田倫夫 柴田勲

三浦真六 佐々木長秀 安藤金栄